

空には無数の蛇口がある!

村瀬 誠

Written by Makoto Murase

バングラデシュの地下水のヒ素汚染は深刻だ。汚染は全土にまたがっており、最新の調査では、総人口1億2900万人のうち、実に5700万もの人たちが、WHOにおけるヒ素の飲料水水質基準を上回る地下水を飲んでしていると推定されている。ヒ素は容易に体内に吸収され、蓄積していく。ヒ素で汚染された水を長期間飲み続けると、皮膚にメラニンが沈着し、やがて一部が角質化、最悪の場合、がん化する。事態がこのまま推移すると、将来、取り返しのつかないことになるかもしれない。

バングラデシュの年間平均降水量は、日本の1.5倍近い2500ミリもの雨が降る。私たち「雨水市民の会」では、ヒ素で汚染された地下水に替えて、この豊かな雨水を活用することで人々の生命を救えないかと考え、バングラデシュに通い続けて4年になるが、今、その成果が徐々に結実しつつある。昨年の私たちの提案を受け、今年、地元のNPOが竹製集水装置を住宅に約160基取り付け付けた。竹の節を下から一段だけ残し、中の節をくり抜いてできた縦樋を、竹を半分に割ってできた横樋の端に穴を開けて差し込む。縦樋の節の上部に穴をくり抜き、小さい竹筒を差し込み、トタン屋根に降った雨水を集めるといった簡単な仕組みだ。

私たちは、今年の7月、ベンガル湾近くの漁村で生活改善運動に取り組んでいるNPO組織「シュシラン」代表のヌルマン氏の案内でこの装置を取り付けた現地を見て歩いた。河口近くの多くの井

戸は塩分が高いうえに、ヒ素で汚染されていた。雨水を飲みはじめた住民たちが口々に言った。「うまい!」。日本の豊かな雨は、バングラデシュ方面からモンスーンに乗って次々とやってくる雲のおかげだが、その恩返しできてうれしかった。

雨季の半年間、雨水を飲めば、ヒ素の摂取量を半減できる。竹は現地で調達できる再生可能な材料である。腐れば新しい竹で作り直せばいい。しかも、彼らの一日の生活費で設置可能である。雨季はこれで解決できるが、問題は乾季だ。私たちは今後、住民の手が届く範囲の安価な雨水タンクを、地元のNPOと共同開発していきたいと考えている。

国連によれば、世界で安全な飲み水にアクセスできない人口が11億人。アジアがそのうちの約60%を占める。今後、人口の急増が予想されているモンスーンアジア地域では、安全な飲み水に欠く人口はさらに増えるだろう。ヨハネスブルグサミットの首脳会議で合意された、2015年までに安全な飲み水のアクセスに欠く人口を半減さ

せるという目標をいかに実現するのか。雨水は、その切り札となるかもしれない。雨水は、誰もが簡単に手に入れられる“スカイウォーター”である。空には無数の蛇口がある。2005年8月1日から7日にかけて、雨水東京国際会議、“Tokyo Asia Pacific (TAP) Sky Water Forum”が墨田区で開催される。ここでは、世界のスカイウォーターネットワークで、アジアの水危機を救う方策が話し合われる。



容器に貯めた雨水に集うバングラデシュの子供たち

CEL

村瀬 誠 (むらせ・まこと)

雨水市民の会事務局長、墨田区地域振興部環境担当環境保全課環境啓発主査。1949年生まれ。76年千葉大学大学院薬学研究所修士課程修了。94年雨水利用東京国際会議実行委員会事務局長、95年雨水利用を進める全国市民の会事務局長、国際雨水資源化学会(IRCSA)副会長。著書は、『環境シグナル』(北斗出版)、『やってみよう雨水利用』(共編著、北斗出版)、『都市の水循環』(共編著、NHKブックス)など。